

令和6年度 山梨県立高等支援学校桃花台学園学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	生徒に誇りと自信をもたせ、他者への思いやりや協調性を培うとともに、職業教育を通じて、意欲的に社会参加する力を養成する。
-----------	---

本年度の重点目標	1 全ての生徒に目標をもたせ、自己実現及び社会的自立を促す指導と支援を行う。
	2 職業教育・キャリア教育の充実を目指すとともに、企業就労に向けた知識・技能を身につけさせ、よりよい就労へ導く。
	3 軽度知的障害生徒の特性や様々な家庭環境にある生徒の指導・支援に専門的かつ組織的な教育を追求する。
	4 高等特別支援学校の特色を生かし、地域に開かれた社会とつながる学校づくりを行うとともに、学校周知のための広報活動を推進する。

達成度	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			年度末評価（令和7年1月15日現在）
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	・わかる授業を目指して、授業力の向上と研究活動の充実を図る。 ・「規範意識」や「自他を尊重する力」の育成を目指した教育活動を展開する。	・全職員が教育目標を共通理解し、その具現化を目指すした教育活動の推進	教職員個々人による目標設定
		・共通教材フォルダの活用など、教材の共有化による合理的な授業準備 ・各教科における共通教材の充実	共通フォルダ内の教材の活用 授業観察の実施と授業改善
		・専門教科と他の教科とを関連させた職業教育の充実 ・一般就労を目指した教育課程の編成	教科会議の内容共有 教育課程の検討
		・綿密な個別の教育支援計画・指導計画の立案と適切な評価 ・個々の生徒の実態に応じた適切な学びの提供	個別の支援計画・年間指導指導計画等の作成
		・わかる授業を目指した授業改善の推進 ・ICT活用や教科指導の充実を目指した相互授業参観と研究活動の推進	研究授業の実施 相互授業参観の実施 ICT活用事例の蓄積 ICT活用に関する研修会の開催
		・特別の教科道德を中心とした「規範意識」や「自他を尊重する力」を醸成するための教育の充実	道德の指導内容の共有と検討
2	・生徒一人一人の特性や能力に応じた専門的な教育・支援を行い、生徒の実態に応じた企業就労や、職場定着に向けて取り組む。	・外部の人材を活用したり企業からの意見を取り入れながらの各コースの教育内容の充実	外部講師を活用した専門的指導 校外実習の実施
		・一般就労の促進と就労後の職場定着に向けた計画的な取組 ・福祉就労生徒への支援の充実	能力や適性に応じた進路指導の促進 就労に係る関係者会議の開催
		進路開拓を目指して、企業等への周知及び連携の促進	企業対象説明会等の開催 進路先の新規開拓
3	・外部専門家を活用し、生徒及び保護者に対する指導・支援を専門的かつ組織的に実施する。 ・生徒の実態や諸課題を踏まえたキャリア教育、安全教育、道德教育、性教育、食育を充実させ、教育課程全体を通して取り組む。	・心理士を活用した、生徒・保護者・教職員への相談支援活動の充実 ・支援会議における生徒や環境に係る課題整理と指導方針の共有	心理士による相談支援事業の実施 校内支援会議の開催
		・各教科等横断的なカリキュラムマネジメントの推進による教育内容の充実	シラバスの見直しと他教科との情報共有
		・いじめや問題行動の未然防止に向けた計画的、組織的な対応 ・安全教育の充実と危機管理マニュアルの周知・共有	「生徒心得」「いじめ基本方針」の共有と内容の検討 危機管理マニュアルの見直しと交通安全、災害教育等の実施
		・人権を尊重した丁寧できめ細やかな指導の徹底 ・生徒の実態を適切に把握し、特性等に応じた合理的配慮の提供	生徒情報の共有 校内支援会議の開催 関係者会議の開催 自立活動の指導計画の作成と活用
4	・一般就労率の向上、志願生徒数の増加を図るため、広報活動を計画的に実施する。 ・保護者・地域・関係機関等に理解を促進するとともに高等特別支援学校としての本校について、地域に開かれた学校づくりを行う。	・本校の教育活動の理解促進を目指し、学校ホームページの効果的活用 ・諸機関が発行する広報誌等を活用し、本校の教育活動を積極的に発信 ・外部参加の行事については、広く広告チラシを配付するなど積極的な働きかけ	ホームページの充実と学校情報の即時更新 各誌への掲載促進 広報活動の計画立案
		・地域における実習等の教育活動の機会を多く設定し、本校理解と相互連携を促進 ・マーケット等の開催を通して地域住民との関係性を深め、開かれた学校づくりの推進 ・学校間交流をとおして、同年代生徒との交流の推進	地域交流や地域を巻き込んだ実習の実施 桃花ダイスキマーケット・収穫祭の効果的計画と実施

山梨県立高等支援学校桃花台学園校長 木村 則夫

学校関係者評価	
実施日（令和7年2月20日）	
評価	意見・要望等
4	・管理職による授業観察や教師間の授業参観を実施して授業力を向上に努めることは大変良いと思う。 ・自立活動については重要なポイントだと思われる。金融教育については社会に出てからの生徒の生活に密接に関わってくるのではないかと。成果に期待したい。 ・総合的な探究の時間は、生徒自身の学びに向かう姿勢や動機づけを高めるための題材設定など工夫して、生活体験に直結するような授業を展開するとよい。非常に期待している。「わかる授業」というよりも「生活に役立つ授業」を目指してもらいたい。全体的な方向性については、来年度以降も検討してもらいたい。 ・自立活動と総合的な探究の時間については、子どもたちが意欲的で主体的に取り組めるように内容を十分吟味してほしい。
	・ICT関連の研修や金融教育について職員がスキルを上げる努力をしている。
4	・専門的な教育や支援を行うにあたり、外部専門家を活用したり様々な職業の体験をさせるなど、生徒の企業就労や職場定着に向けて、工夫していることが分かった。 ・「外部専門家を活用した専門コースの授業はとても良い。」と、自分の会社で働いている桃花台の卒業生が話してくれている。
	・一人一人の特性や能力を、どのように把握し応じるかが重要である。様々な関係機関が連携することは大切なことであるが、視点が増えれば増えるほど共通の指標や枠組みが必要になってくるのではないかと。汎用性の高い知能検査や就労に特化したアセスメントツールを利用した評価方法を検討したらどうか。
4	・外部専門家の心理士2名による定期的な相談体制は不安定な生徒や保護者にとって安定した生活を送るうえで良い支援だと思われる。 ・ジットグループは多角経営をしており多くの専門部門を持っている。（製造 冠婚葬祭 保育園 障害福祉 農業 飲食業 経営管理 海外事業等）役立てることがあれば協力する用意がある。
	・「生徒の実態や諸課題を踏まえて教育課程全体を通して行う」ということであるが、具体的にどうしているのか詳しく説明が欲しい。 ・日々の学校生活において、生徒たちが楽しい日々が送れるような積極的な生徒指導を行ってほしい。
4	・外部専門家を活用した教育や支援を行うことで、生徒の企業就労や職場定着につながってくると思う。
	・本年度の具体的方策に示されている内容で良い。一般就労の実現は大変なことだと思うが、教職員が力を合わせて実現していって欲しい。 ・学校情報誌の発行や新聞、テレビでの報道等、広報活動はとてもよくされている。 ・笛吹高校との授業交流はとても良いことだと思う。互いに学びあうことを目指していければよい。桃花台はビル清掃やパン作り等、相手にない技術や設備を利用していけば良い。 ・広報活動の一環として生徒による動画配信はできないだろうか。安全対策を十分したうえでメディアリテラシーについて体験的に学ぶためにも検討の余地はあると思う。 ・生徒とジットとの関わりが実習以外でも盛んになればよいと思う。 ・ホームページやブログ、情報誌等により学校の様子が広く知られるようになった。清掃活動や学校間の交流を行う中で地域との関係性もよくなっている。

留意点（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。